

市之川公民館だより 令和6年2月号 (No.602号)

〒793-0037 西条市市之川6678-1 市之川地区人口「12月末現在」

Tel・Fax (0897) 56-3300 人口 9人(男4人・女5人)

eメール ichinokawa-k@saijo-city.jp 世帯数 6世帯

※ 西条市市之川公民館だよりで検索するとカラー版がご覧になれます。

2月 如月 (きさらぎ)



水仙

早いもので令和6年もあっという間に1カ月が過ぎましたね。皆さんいかがお過ごしでしょうか。『立春』とは言え、まだまだ寒い日続きます。体調管理には気をつけたいものです。特に、コロナやインフルエンザの感染予防のため、効果的な『マスク着用』や帰宅後の『うがい・手洗い』を心がけ、お元気でお過ごし下さい。

《2月の行事予定》

日	曜	行事・時刻・場所
10	土	からおけ会 10:00～ 集会室
11	日	祝 建国記念の日
23	金	祝 天皇誕生日
24	土	からおけ会 10:00～ 集会室

※ 桜の木の剪定

12月14日(木) テングス病にかかった桜の木を利用してチェーンソー取扱い訓練を行いました。剪定後の切口には『癒合剤』を塗るなどの処理はしておりますが、桜の木が枯れないことを願うばかりです。

伐採前の安全確保。二連梯子の固定作業を行っています。



チェーンソーで桜の幹を切断



テングス病にかかった枝



※ 公民館周辺の大掃除【草刈り等】

12月15日(金) 社会教育課の職員2名にお手伝いいただき、水路掃除、千荷坑周辺の草刈りを行いました。

グラウンド南側水路 清掃後



グラウンド西側水路 清掃後



清掃後の水路。落ち葉や土砂により埋もれていましたが、水が流れるようになりました。

千荷坑



水路の清掃後、千荷坑上部と下部の草刈りを行いました。すっきりした千荷坑。見栄えが良くなりました。

12月26日(火)には社会教育課の職員4名にお手伝いいただき、水源地清掃のほか、公民館東側斜面の草刈りや、鉦山事務所跡等の草刈り作業を行いました。

鉦山事務所跡 作業中



作業後



選鉦場跡 作業中



看板の下部の草刈り作業



千荷坑側から撮影
看板がはっきり見えるようになりました。

作業完了



※ 大町公民館での鉱物展

1月4日（木）から1月28日（日）の間 大町公民館にて鉱物展を開催しました。

大町公民館 通路側の展示ケース



右側から、市之川公民館で作成した宝玉石・市之川産の水晶・輝安鉱



大町公民館 入口の展示ケース

こちらには主に海外産の鉱物を展示しました。



日本の国石『ひすい』糸魚川をはじめ、国内産の『ひすい』を産地ごとに展示しました。



2024年1月10日

～毎月10日は人権を考える日～

西条市人権教育協議会
西条市人権擁護課

第42回全国中学生人権作文コンテスト「愛媛県大会」

（主催：松山地方法務局・愛媛県人権擁護委員連合会）

で西条市内中学校の下記生徒3名が入賞されました。

- 西条北中学校 大村和希羽 （愛媛県教育委員会教育長賞）
- 小松中学校 前迫 海音（南海放送賞）
- 東予東中学校 神野 良太（あいテレビ賞） ※敬称略

この3名の方の人権作文を、順次紹介します。

「松山地方法務局ホームページ」より

(<https://houmukyoku.moj.go.jp/matsuyama/index.html>)

【優秀賞】愛媛県教育委員会教育長賞

「一歩踏み出すために」

西条市立西条北中学校 2年 大村和希羽

中学校に入学して一年半が経った。しんどいこともあるけれど、楽しい学校生活を送っている。友達もできて、部活にも一生懸命に取り組めるようになったからだ。

だが、学校生活の中で苦しくなることが全くないわけではない。休み時間などにたまに聞こえてくる会話に気分が落ちこんでしまうときもある。言っている人は深く考えずに言っているのかもしれないけれど。「学校に来ていないやつを見るといらつく。学校に来れなくなるとかメンタル弱すぎやろ。」私はこの言葉を聞いてどきどきして、体がこわばってしまった。怖くなったからだ。

私は小学校のとき、学校に行けなかった時期があった。四年生のときのことだ。五年生からは保健室登校、六年生のときもほとんど別室で過ごした。だから、私に向けられた言葉ではないと分かっているけど、そのときのことを思い出して怖くなってしまったのだ。私はみんなにとっていらつく存在だったのだろうか。確かにメンタルが弱いと言われればそうだったかもしれない。当時疲れきって家から出ることもできない状態だったからだ。でも、それまでのことを考えるとメンタルが弱いからという一言で片付けられるとすごく嫌な気持ちになる。学校に行かないと決めるまでにどれだけ悩んだか、どれだけ苦しんだか他人には分からないと思う。だから、「いらつく」「メンタルが弱い」という言葉は私の心を突き刺すくらい辛い物なのだ。それに、もし学校に来ていない本人がこの言葉を聞いたらどんな気持ちになるのだろうと、考えただけでぞっとしてしまう。私なら二度とそんな学校に行くもんかと思うだろう。こんなことを言うのは本当にやめてほしいと思う。

しかし、私は思うだけで、何も言えない。そして、そんな自分にいらいらして、たまに嫌になる。じゃあそんなこと言わないでと伝えればいいのにとされるかも知れないけど、言うことはできない。それは、四年生のあのときに戻ってしまうかもしれないからだ。私が学校に行けなくなったのは、人に注意をしたことがきっかけだった。私の意見はあっさり否定された。そして、周りの人はその意見に同調して一緒になって私に言い返してくる人もいた。また、その意見に同調しているわけではないけど、何も言わず知らん顔をしている人もいた。もしかしたら、私の意見に賛成してくれている人もいたかもしれない。でも、それを見つけれなかった。そんな日々がしばらく続いた。そして、もともと友達のいないクラスだったというのもあり、私は一人になってしまった。一人で過ごす休み時間はすごく長かった。だから、私は休み時間が一番嫌いだった。そして、一学期の終わりには私はクラスに入れなくなってしまっていた。

私は、どうしたらよかったのだろうか。黙っていたらよかったのだろうか。なんなら一緒になってぶけるくらいのほうがよかったのだろうか。私が心を広くもって、もう少しがまんできていればこんなことにはならなかったのだろう。私にもう少しユーモアがあっておもしろい話ができる人気者だったら、その人たちは話を聞いてくれたかもしれない。でも、現実の私はユーモアもない、人気もない、心も広くない。残念ながら話をしても受け入れてもらえそうにない。世の中には差別をなくす立場に立つ人と差別を残す立場に立つ人の二種類の人がいるという。今の私は、完全に差別を残す立場の人間である。そう考えると悔しくてたまらなくなる。できれば差別をなくす立場に立つ人になりたい。でも、傷つきたくもない。学校に通えなくなるようなことには、もう二度となくたくない。二つの気持ちが天びんのように揺れ動いている。バランスがとれて、どちらも大切にできるようにしたい。

私がこの作文を書いたのは、自分のためである。正直言って、学校に来ていない子のことをなんとかしてあげたいと、いつも考えているわけではない。悪口を言っている人のことを大切にしたいと思ってこれを書いたわけでもない。自分の気持ちの整理をしたかったからだ。そして、分かったことは、自分のことが一番大切で、誰からも嫌われたくない、臆病者だということだ。私は八方美人の典型であろう。

理想は、学校に来れない子のために何ができるか考えたり、悪口を言う子に「言わないでほしい」ときちんと言えたりできる人になることだ。しかし、理想にはまだ遠い。

私は、この作文を書きながら小学校のときのことを思い出し、何度も泣いた。でも、泣きながら少しずつ気持ちがほぐれていくように思った。まだまだ弱くて臆病な私だけど、一つだけこれから実行しようと思うことを決めた。それは、学校に来ていない子の机の中をきれいに整とんすることだ。いつ来ても気持ちよく過ごせるように。